

白浜地区学校再編に関わる地区説明会（保護者対象） 会議録

日時 令和8年1月13日（火）

午後7時00分から午後8時12分まで

会場 白浜コミュニティセンター 大会議室

【当日関係者】

参加者	19人
検討委員	15人（2人欠席）
オブザーバー	3人（2人欠席）
事務局	11人（2人欠席）

1 開会

進行 皆さんこんばんは。定刻となりましたので、始めさせていただきます。

本日は、大変お忙しい中、また夜間お疲れのところ御出席いただき、誠にありがとうございます。

本日の進行を務めます、教育委員会事務局学校再編整備課長の鈴木と申します。

会議に入る前に、1点お願いがございます。会議録を作成するため、録音をさせていただきます。本日の会議録は、発言者のお名前を伏せた状態にして、ホームページに掲載いたしますので、御了承ください。よろしく願いいたします。

説明会に入る前に、お手元に配付してございます、資料の確認をお願いいたします。

まず、説明会次第。

令和7年度白浜地区学校再編検討委員会委員名簿。

次に、本日の席次表。

次に、資料1から資料4までをホチキス留めしたもの。

配付物は以上の4種類となります。

不足等はありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ただ今から、白浜地区学校再編に関わる地区説明会を開会いたします。

2 委員長挨拶

進行 次第の2、委員長挨拶。

山崎委員長、お願いいたします。

委員長 皆さん、こんばんは。

夜分お疲れのところ、また今日は随分強い風の中を、この説明会のためにお越しいただきまして、本当にありがとうございます。また、検討委員の皆様、そしてオブザーバーの皆様、非常にお疲れのところ恐れ入ります。

今紹介していただきました、私、委員長の山崎政美と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは座って失礼いたします。

私ども白浜地区学校再編検討委員会は、白浜小学校の再編に関し、白浜地区の保護者の皆様や地元住民の皆様と情報を共有しながら、意見交換をし、それをもとにして、委員会内で協議・検討を重ね、白浜地区の学校再編に関する方針をまとめて、その結果を市へ提言するという役割を仰せつかっております。

本日は、子どもたちを取り巻く様々な不安要素を解消して、良質な学校環境を保持するとともに、さらに向上させるために、これからどういう選択をすれば子どもたちの将来にとって最善なのかを、皆様と一緒に考えるためにこの説明会を開催いたしました。

後ほど事務局のほうから、市全体の小学校の生徒数の推移見込み、またその中で白浜小学校が置かれている現状、そして、仮の話としましてね、千倉小学校と統合した場合についての説明があります。説明があった後、皆様からの貴重な御意見を頂戴する段取りとなっておりますので、白浜地区の子どもたちのために、どうぞ忌憚のない御意見をお願い申し上げます。

簡単ですけれども、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3 教育長挨拶

進行 ありがとうございます。

続いて、次第の3、教育長挨拶。

三幣教育長から挨拶を申し上げます。

教育長 こんばんは。夜分お集まりいただきありがとうございます。また、再編検討委員の皆様方も、ありがとうございます。

今、委員長のほうからありましたが、私どもは、11月28日に第1回の再編検討委員会を開きまして、委員長・副委員長を決めさせていただきました。

私どもとすると、白浜小学校と千倉小学校の統合ということで、御協議いただきたいということでお願いしております。

私ども南房総市は、小学校の統合につきましては、平群小学校と岩井小学校、富浦小学校と八束小学校、あと白浜地区においては、長尾小学校と白浜小学校、千倉については千倉の4つの小学校を一つに、丸山・和田につきましては、それぞれ2校ずつの小学校を1校に統合するというので、これまで進んでまいりました。

学校統合を考えるとときにつきましては、小学校におきましては、複式学級になることが想定される状況になりましたら、再編検討委員会を立ち上げて、再編について御協議いただいております。

複式学級というのは、後ほどまた説明いたしますけど、例えば2年生と3年生、3年生と4年生、そのように隣り合う学年が16人以下になりますと、二つの学年を合わせた一つの学級で学習するように、というようなことが決まっております。といいますのは、学年一桁ですね。そういう人数になってくると、いろいろ問題が出てくる。そういうわけで、1学年では10人足りないので、二つの学年を合わせて16人以上にしようという、合わせても16人以下なんですけど、少しでも多い人数の学年でやっていこうという、そういう趣旨があります。

現実には、白浜小学校ですけど、今の1年生は6人です。男の子が2人、女の子が4人。今後ですね、後で説明いたしますけど、合わせて5人あるいは4人、男の子1人、女の子3人、そういうような学年も出てきます。このような少ない人数で、6年間の学校生活を送ることが、果たして子どもたちにとっていいかどうか、この

辺も踏まえて検討を重ねていきたいと思っています。

今日は再編検討委員会が協議を進めていく上で、皆さん方がどのような疑問あるいは御意見をもっているか、それを伺う機会ですので、委員長からもお話がありましたように、忌憚のないところで御質問・御意見いただければ大変ありがたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

4 委員紹介

進行 続きます、次第の4、委員紹介。

お配りしてある、令和7年度白浜地区学校再編検討委員会名簿と、席次表を御用意ください。

本来であれば、委員お一人ずつ、お名前を御紹介するところではありますが、速やかに説明会に移り、皆様から御意見を頂戴する時間をとりたいと思いますので、委員名簿と席次表を御確認いただき、御紹介に代えさせていただきます。

御理解のほど、よろしく願いいたします。

5 説明

進行 続きます、次第の5、説明に移ります。

ここからは、山崎委員長に進行をお願いいたします。

委員長 それでは、次第の5、説明に入ります。

(1)「白浜地区の小学校の現状について」、(2)「白浜地区の小学校再編(案)について」とありますが、こちらについて事務局から説明をした後、次第の6、質疑・意見交換で、皆様からの御質問や御意見等をお受けしたいと思います。

それでは、事務局からの説明をお願いいたします。

事務局 それでは、次第の5、説明の(1)「白浜地区の小学校の現状について」、説明いたします。

先ほどの教育長の挨拶の中でも少し話がありましたが、教育委員会の立場としては、子どもたちの教育環境を考えたとき、一クラスの人数が極端に少なくならないよう、一定の規模の学校を維持していくことが望ましいという考えを持っております。本日はそのような観点から、子どもの人数推移や複式学級などの、非常に小規模な学校の特徴や課題について御説明します。後ほど、質疑・意見交換のお時間がございますが、ここでいただく様々な御意見等を持ち帰り、白浜地区学校再編検討委員会にて協議・検討いただいて、小学校の再編の方向性を決めていくこととなりますので、よろしく願いいたします。

保護者の皆さまにつきましては、昨年の9月にPTA役員さんのほうで開催しました保護者説明会と同じような内容になってしまいますが、今回は学校再編検討委員会が主催となりますので、改めて御説明をしたいと思います。

それでは、資料1「南房総市立小学校児童数 推移見込み（市内全地区）」を御覧ください。この表は、令和7年5月1日現在で、住民基本台帳と学校基本調査をもとにして、市内の児童数の推移見込みを作成したのになります。

表の左側が地区別に見る1歳から6年生までの人数、表の右側が令和7年度から令和13年度までの小学校の児童数推移見込みとなっています。推移見込みについては、グラフもつけております。どの地域においても児童数の減少が見られており、令和7年度と比較して令和13年度までに、全児童数でおよそ60%程度まで減少する見込みです。この表は、あくまで見込み値でございますが、これまでの市内の出生数からすると、今後も減少傾向であることが予想されます。

続いて、資料2を御覧ください。こちらは先ほどの表から、白浜地区と千倉地区について取り出した資料になります。表1の白浜地区・千倉地区児童数を御覧ください。令和7年5月1日時点の白浜地区の児童数は、小学2年生から6年生までは15人前後となっておりますが、小学1年生から下の年代は一桁の人数が出てきます。

続いて、表2を御覧ください。表1の人数をもとに、今後、白浜小学校のみで経過した場合の各学年の通常学級の人数と学級数を、年度別に表した表になります。現在の千葉県の学級編制基準は、小学校は一クラス35人学級で運用されております。この学級数は通常学級の人数をもとに編制しますが、将来の特別支援学級数の

予測ができないため、令和7年度5月1日時点の通常学級の人数について網掛けのマスで反映させております。

表を見ていただくと、白浜小学校は現在、各学年一クラスずつとなっており、令和9年度からは複式学級に該当するような人数となる学年が出てきます。転入や転出等によって変わる可能性はありますが、このまま推移しますと、令和11年度には複式学級が二つできる見込みとなっております。

複式学級とは、二つの学年を一人の先生が受け持つ学級のことで、先生は授業の際、二つの学年を交互に見ながら指導をします。複式学級になる基準については、次のページにまとめております。3ページですね。複式学級になる基準については、小学校における基準は、①小学1年生とその上の学年の児童数の合計が8人以下の場合。②小学1年生を含まない2つの学年の合計が16人以下の場合、となっております。

続きまして、教員配置数について記載しております。教員の配置基準は法律で定められており、様々な規定がありますが、市内の小学校の規模で言いますと、1つの学校には、校長・教頭が1名ずつ、そして教諭については、学級数プラス1名が配置されます。学級数によって先生の配置数が決まることから、複式学級になり学級数が減ると、先生も減ることになります。

複式学級が一つの場合は、プラスされた1名の教員にも担任を持ってもらうことで6学級の運営を続けることも可能ではありますが、複式学級が二つになると、教員が足りず、複式学級での運用をしていくことになります。

続いて表3は、千倉小学校と統合した場合の推移となっております。全校で12学級を下回る規模の学校は、小規模校とされておりますが、千倉地区についても児童数が減少しており、現在の千倉小学校は11学級の小規模校となっております。仮に二つの小学校が統合した場合も、12学級以上の標準規模には届かず、全ての学年で二クラスを維持することは難しい状況ではありますが、複式学級の発生は当面ないことが予想されます。

続いて、資料3を御覧ください。こちらは文部科学省が作成した、学校の適正規模・適正配置に関する手引の抜粋で、学校の規模が教育環境にどのような影響を及ぼすかの参考になりますので、こちらをもとに御説明したいと思います。

1 ページめくっていただいて5 ページ目に、学級数が少ないことによるメリット・デメリットの表があります。このメリット・デメリットというのは、人によって捉え方が変わるものですので一概には言えませんが、これは1 2 学級を下回るような学校の特徴として挙げられているもので、南房総市内全ての学校がこれに該当します。

保護者の皆様から見て良いと感じることが多いメリットとして、メリットの①に書いてある「きめ細かな指導」が受けられるという点がよくあげられると思います。一方、デメリットの例として、⑥の男女比の偏りが生じるというような場合があります。例えば白浜小学校でも、6年生の人数が男の子3人、女の子12人と、人数の偏りが出ている学年もあります。

このように、白浜小学校においても、メリットの①のような少人数による良い点がある一方、デメリットの影響も出ている状況があると思います。白浜小学校では今年の1年生の人数が極端に少なかったことにより、運動会や体育の授業などで課題に直面した場面があると伺っておりますが、これはデメリットの⑤集団活動・行事の教育効果が下がるや、⑧の集団学習の実施の制約に該当し、また②のような互いに切磋琢磨するような環境も作りにくいというような状況になっています。このような課題は、児童数の減少に応じて一層顕在化していくということが懸念されるところであり、複式学級になると、これに加え、さらに課題が生ずる懸念があります。

5 ページの(3)、表の下の(3)、複式学級になった場合の学校運営上の課題として、五つ挙げられています。ちょっと読み上げさせていただきます。

①教員に特別な指導技術が求められる。②複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい。③単式学級の場合と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがあること。④実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる。⑤兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約が生ずる可能性があるとしてされています。

さらに、(4)教職員数が少なくなることによる学校運営上の課題として、多面的な指導や評価が難しくなったり、教員の校務・行事の負担の増加、教員が切磋琢磨したり研修を受ける機会の減少、学校が直面する課題への組織的な対応力など、1

1の例が挙げられておりますが、これらの問題が顕在化し、結果として教育活動に大きな制約が生じる恐れがあるとしております。

仮に、これらの課題が生じた場合、(5)学校運営上の課題が児童生徒に与える影響として九つありますが、①集団の中で自己主張したり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。②児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。③協働的な学びの実現が困難となる。④教員それぞれの専門性を生かした教育が受けられない可能性がある。⑤切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。⑥教員への依存心が強まる可能性がある。⑦進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。⑧多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。⑨多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい、というような影響を与える可能性があるとしております。

これらの懸念があることから、教育環境を考えた時、教育委員会としては複式学級にならない学校規模を維持したほうがよいとの考えから、小学校においては複式学級の発生が懸念される場合を、学校再編の検討を開始する目安としております。

7ページの最後には、学校統合することによる課題を上げております。

①通学区域の拡大。スクールバス通学となり、運動不足が懸念されます。また、通学時間が長くなることにより、家庭学習の時間が減少することが懸念されます。

②児童生徒にとっての環境の変化。学校統合による学習環境の変化や生活環境、教職員との関係等が大きく変化するため、新たな生活に戸惑いが生じることに配慮が必要となります。

③地域から学校が無くなる。学校の位置については今後検討されていく内容となりますが、統合の結果、学校がなくなってしまう地域にとっての話になります。学校施設は、生徒の教育のための施設であるだけでなく、地域コミュニティの核として防災・保育・地域交流の場等の役割を持っているため、統合することにより、学校と地域コミュニティの希薄化が懸念されます。

学校統合の際は、これらの課題解消に努めていくこととなります。

事務局 続きまして、資料4を御覧ください。こちらは、市が提案する白浜小学校の再編

案となります。

ここまで御説明しましたように、教育委員会としては複式学級の生じる規模では課題が多くあると認識しており、学校の統合が可能な範囲であれば、統合をし、一定の学校規模を維持していくことが良いという考えを持っております。そのため、市の提案は「白浜小学校と千倉小学校を統合する」としています。

千倉小学校との統合を検討する理由を、アからエの4つにまとめております。

ア 児童が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくためには、統合により、児童数を確保することが望ましいと考えられるため。

イ 白浜小学校は、現在、各学年1クラスだが、今後複式学級が発生することが見込まれている。統合することにより1～2クラス編制が可能となり、複式学級の発生を解消できるため。

ウ 学級数が少ないと、配置される教員も少なくなり、教育活動に制約が生じることが懸念されるが、統合することによって教員の配置数を確保でき、より良い教育環境を提供できるようになるため。

エ 統合小学校の校舎を、白浜小学校又は千倉小学校のどちらかの校舎を使用するとした場合に、白浜地区及び千倉地区のどちらからでも、30分程度でスクールバスを使用した通学が可能であるため。

また、学校の再編時期、学校の位置、学校の名称に関する事項については、統合する相手の地区と協議をしながら進めていくべき内容であるため、白浜地区と千倉地区の検討委員会がそれぞれ、統合するという方向性で一致した後、白浜地区及び千倉地区学校再編検討委員会の合同会議を開催し、協議・検討するものとしています。

今後、この市の提案をたたき台に、地域の皆さまの御意見などを伺いながら、白浜地区学校再編検討委員会で御協議・御検討いただいて、白浜地区の学校再編の方向性を出していただく予定です。

以上で説明を終わります。

6 質疑・意見交換

委員長 説明が終わりました。

それではこれより、次第の6、質疑・意見交換に移りたいと思います。

ただ今の説明に対して、御意見・御質問、その他聞きたいことがある方は、挙手をお願いいたします。事務局のほうからマイクをお持ちしますので、自席にてお待ちください。マイクが届きましたら、お名前をおっしゃられてから、御発言をお願いいたします。

どんなことでも結構でございます。それでは、御質問・御意見等をお願いいたします。

保護者 よろしく申し上げます。お疲れ様です。

一点、客観的にただ聞きたいだけなんですけど、例えば、千倉の学校から白浜に来てもらうっていう、分断することっていうのは難しいですか。今千倉小学校に通ってる方が、子どもたちが、白浜小学校に逆に来るっていう。クラスを分けて、白浜小学校のほうにも来てもらい、クラスをちょっと増やすという計算とか、そういうのっていうのはどうなのかなと思って。

現実的に難しいから変わってないんでしょうけど、こういう案っていうのは実際あるんでしょうか。

委員長 ただいまの御意見について、事務局のほうから回答をお願いいたします。

教育長 例えば、旧七浦小学校区とか、そういうことが想定されるんだと思いますが、これは地区の成り立ちとか、そういうことから極めて難しいと思っています。それでよろしいですか。

保護者 難しいという理由が、将来的に例えば白浜の学校がなくなって、子どもたちが少なくなって、その先を見据えた中で難しいという判断がどこまで町にとってメリットになるかとか、子どもたちの教育とか、もちろん教員もそれはわかっているだろうから、負担が多いとか、いろんなことがあるんだと思うんですけども、今デジタル

化が進んで、GIGAっていう文部科学省が出してる子ども一人に対して端末を与えるとか、そういう構想がたくさん出ている中で、難しいっていうところがどこまで歩み寄れるかとか、どういった形で難しいとかっていう、なんていうか、その辺はどうなんでしょうか。

難しいっていうのはもちろんわかってるんですけど、今現在、日本でも難しい状態になってて、それを例えば学校を合併するからその問題を解決できるかといったらば、結局これはイタチごっこで、どんどん子どもが減っていく中で、この結論が本当に最適で、そのままこの問題解決に繋がるのかっていうたら、僕はどうしてもそこは納得いかないといいますか。

もちろん子どもが5人・6人になったときに男女比が変わって、クラスの問題が起きるっていうのは、僕も学校の教育上どうなんだろうなって思うところはあるんですけども。そんなとこなんですけれども。

教育長 七浦地区の七浦小学校ですね。これが千倉の1校になったっていう。これも七浦地区、七浦小学校と忽戸小学校の人数が、今の白浜小学校と同じように少なくなってきたから統合したわけでして、今七浦地区に住んでいる小学生が白浜小学校に通学しても、そんなに大きな人数としてはならないと思います。

なおかつ、やっぱり今千倉小学校に通っている子どもたちの一部を、「あなたたちはこっちへ通いなさい」ということは、これはなかなか親子の理解は得られないと思います。また、地区の理解も得られないと思います。

あともう一点、タブレット等の話ですけど、これが20年先・30年先ですね。今は陸続きになっていますけど、これが離れた離島のことを考えれば御理解いただけるとは思いますけど、今よりも市内全体で子どもの数が少なくなっていったときに、1校にするのは通学時間からいっても非常に難しいだろうっていう、そういうようなことを勘案して、初めてタブレットを使って合同の授業をするとか、そういうことが考えに挙がってくるかと思いますが、通学が可能な範囲では、やはり一堂に会して、タブレットを通してではなくて、人と人を通して、子ども同士の触れ合いとか、そういうものがある状況をつくって、子どもたちを育てていくのが一番あるべき姿だと思っています。

ただ、50年先とか、そういったときになったときには、今おっしゃったようなことも考えざるを得ない状況にはなるかなと思いますけど、現在、私どもとしては全く想定していません。

委員長 よろしいですか。

保護者 ありがとうございます。

ちなみに、千倉の学校にバスで通ってる子たちっていうのは、どのくらいいるんですか。通学にかかる時間を30分かけて、僕、土地のことあまり詳しくなくてこんなこと言うの恐縮なんですけど、白浜・千倉の間でちょうど跨いで千倉小学校に行ってる子たちとかが、例えば白浜小学校のほうが近いとか、そういう子たちっていうのは現実にいるのかどうかっていうのがわかるんですかね。

教育長 千倉小学校でバス通学が何人くらいとか、ちょっと確認しますんで、お時間いただきたいと思います。資料がなければ、お答えできないんですけど。

委員長 よろしいでしょうか。

それでは、他に意見のある方、いらっしゃいますか。

この機会ですから、どんなことでも疑問に思ってることがあれば。

はい、どうぞ。

保護者 よろしくお願ひします。

教育長 お掛けになって。

保護者 8ページ、資料4の2のところですね、「30分程度でスクールバスを使用した通学が可能である」とあります。程度っていうのは、30分のプラス上までの範囲を想定していらっしゃるのか。30分程度っていうのが、どこまでを30分程度ということで、この中に含まれているのか。50分も30分程度として考えていらっ

しゃるのか。35分までなのか。

ここから千倉小学校まで30分を通うのはかなり厳しいかなと思いましたが、御質問です。

委員長 事務局、お願いします。

教育長 今、おっしゃったとおりだと思います。50分は想定してません。35分とか、せいぜいそのぐらいで。

私どもは、これが具体的になってきましたら、保護者の皆様を中心にした通学支援部会というものを設けます。その中でバス停をどこにするかとか、どこからバスがスタートするか、そういったことは各地区で同じようにこれまで決めてきております。

例えばですね、長尾地区の一番向こうはキャンプ場のあるほうですね。そこからバスがスタートしたとしても、順次子どもたちをバスに乗せて学校に行くというようなことは、他の学校でも考えてやっておりません。例えば白浜地区ではそうすることではなく、白浜地区を例にとったほうがわかりやすいつてことで御説明いたしますけど、例えば白浜の長尾の一番布良寄りですね。そこからバスがスタートしても、例えば一定程度のところを最後の子どもを乗つける場所にして、あとは乗り降りしないで、そのまま学校まで行くという、そういうような形で考えております。もう1便は、したがいまして、ここからスタートして、乙浜のほうまで子どもたちを乗せていくっていう。帰りは逆になるわけですね。帰りは学校のほうから来て、ここ（乙浜や長尾）から子どもたちを降ろし始めるということで、こういう形で今まで学校再編してきましたが、学校のスクールバスはこんなような形でバスを走らせてます。

大きなバスで学校から一番遠いところまで1路線で走らせるとか、そういうことではなくて、少し小さめのバス、中型とかマイクロとか、そういうバスで小刻みにして、子どもたちが乗っている時間を少なくするような工夫はしております。ですから、50分とかそういうことは、私どもとすれば全く想定しない時間であります。

誤魔化すようですけど、30分程度ということで、多少その日のバスの運行具合

で5分程度早くなったりとか、遅くなったりする。そういうような形を考えて、保護者の皆さんを含めた会議の中で決定していきたい、そんなふうに考えてます。

保護者 ありがとうございます。

そうすると、今の中学校のスクールバスの形式で運行される予定だっていう認識でいいのかなと思いました。ただ、根本から半分ぐらいまで、そこまでは各駅。要所要所で停車するわけですよ。停車して、そこからその先ストレートで千倉小で、根本から乗った子が30分程度、35分で本当に着けるのかっていうところは、だいぶ疑問があります。

教育長 それは、私どもも、自家用車じゃなくて、普通車じゃなくて、マイクロとか、使うバスで何度も試走して、確認してやっていきますので、おそらくそれも御心配にならないで、結論が出てくると思います。

まだ場所をどこにするって決まっていませんけど、もしそうなった場合でも、そういうような配慮をしていくことを、これまでもやってきております。

委員長 よろしいですか。

ありがとうございました。

どうぞ。

保護者 小学校は、今ある白浜小か千倉小を使うっていう感じでしょうか。それとも、間くらいに、難しいですけど、新しい小学校を造って登校するっていう案はないんですか。

委員長 じゃあ、お願いします。

教育長 これは先ほど申し上げましたように、両地区で統合するという方向性ができましたら、合同会議を開いていきます。その中で、私どもは、学校の位置とかそういうものを提案していきます。

今の段階で、財政的な状況も踏まえて提案することになるわけですので、今私どもが考えているのが、今の両方の学校で、今おっしゃられたような新たな場所とか、そういったものを含めて検討しまして、その案で合同会議で提案していきたいと思っています。

保護者 ありがとうございます。

委員長 はい、どうぞ。よろしいですか。

はい、どうぞ。

保護者 皆さん距離のことをおっしゃってると思うんですけども、まず賛成する・反対するっていうのが、距離の問題が一番大きいと思うんです。

そこが、例えば「新しい小学校をここの地区に造ります」ってなったら、みんなきっと「賛成だね」「反対だね」っていう意見が出しやすくなるんじゃないかなと思っているんですけども、場所を先に決定っていうか、この辺にしましょうかっていうのが先っていうのはできないんですか。質問です。

教育長 私どもが一番考えてるのは、子どもたちの数が少なくなってきたわけですね。

これを解消して、少しでも大きな集団で小学校生活を送らせたいっていう。このことについてまず合意を得たいということですね。

ですから、その他のことは後で出てくる問題であって、場所がここだったら賛成するけど、じゃあそこじゃなかったら、今の子どもたちが少なくなっていく学習環境・生活環境はそのままにするのかっていう。

いろんな問題が出てくるわけですけど、今少なくなっていく子どもたちの小学校生活をどんなふうに送らせていったらいいか。この点だけでまず結論を出していただいて、合意を得て、その後の段階として、今お話があったようなことについて協議していただきたいと思っています。

これまでも各地区で同じような形で進めていますんで、まずは今の子どもたちの状況がこれでいいのかどうかっていう、これをまず議論していただいて、検討してい

ただいて、結論を出していただければと思っています。

保護者 ありがとうございます。

委員長 よろしいですか。ありがとうございます。

他に御意見・御質問等あれば。

はい、どうぞ。

保護者 まず前提条件ということで、まだこれを今の段階では統合する・しないっていうところは決まっていないということで考えています。

その中で、今教育長からお話があったように、まず子どもにとって統合するほうがいいのか、悪いのか。いいという方向に行けば、教育委員会のほうは統合したいという方向で話をされてるなっていうのは、その結論づけというところが、どのようにして判断されるのか。住民投票をとるっていうところが一番わかりやすいところだと思うんですけど、結局、この委員会の中で決まってしまうということで、今、反対意見というところについて、これこれ伺いましたよっていうのが、たぶん教育委員会の考え方。伺った上で、じゃあどう判断しますかっていうのは、そっちの中で話し合っていくって形になってくると、実際にはどこまで反映されてるのか。実際の決定の仕方、話し合いで決めましたって言われても、なかなかどこまで公正な話し合いの中で決定がされてるのかわかりづらい部分があると思います。

実際、今いっぱいいらっしゃる中で、そちらの再編委員会さんのほうから話があったのは、結局、統合することのメリットと複式学級のデメリットという話があったんですけども、再編委員会さんのほうから、こういうメリット、こういう方式だったら残していけるんじゃないかっていう話は全くないかもしれません。そういう会の中で話し合われたことで、「じゃあこう決まりましたよ」って言われても、なかなか納得が得られないことが多いんじゃないかと思います。

そういった決定の仕方についての公平性っていう部分は、どうお考えになっているのか教えていただければと思います。

教育長 今日、再編検討委員会が立ち上がりまして、これから再編検討委員会で協議を進めていくわけです。学校再編するべきか、するべきじゃないかということの協議を進めていきます。

その前段階で、保護者の皆様がどういう意見、どういう懸念をお持ちなのかっていうことを、今日御出席いただいた再編検討委員会の皆さんは、これからの会議の参考にしていきます。

今週末の16日には、地区の方々を対象にした説明会を開きます。そこでも同じように、いろんな御意見・御懸念・御質問等いただいて、それを踏まえて再編検討委員会で協議していただきます。この内容につきましては、会議録を全部ホームページ等に載せております。

例えば私どもは、再編検討委員会で、再編の方向でやっという方向ですね。再編しようということじゃなくて、再編の方向で話を進めていこうっていう、再編検討委員会の結論が出ましたら、もう一度このような説明会を開きます。その際については、今保護者さんがおっしゃったような、例えばこういう意見は、こういう考えはどうなんだっていうのがあれば、その時点で、また私どものほう、あるいは委員のほうからお答えになると思います。こういうやり取りをしながら、合意形成をしていくようなことをやってきております。再編検討委員会につきましては、基本的には多数決はとらないで、とことん協議して方向性を見出していく、そういう形をとっています。

その間に、例えば区長さん方は区長会で報告して意見を集約するとか、あるいはPTAの方々は保護者会を開いて、また意見集約するとか、そういったことも出てくるかなと思っております。

まだ何かありましたら、どうぞ。

保護者 実際、今までの中で、区長さんとかはそういう話の集約をされたりとか、多数決をとらずに、徹底的に話し合いをしながらっていうことですけど、それって、もう再編したいですよっていう声が大きく、言ったら、教育委員会はやりたいていう方向性で意思統一されているわけじゃないですか。それに対しての、住民のほうの、住民というか再編委員会の方の中でも、プラスワンの人がいる中だったら、当然声

としては、教育委員会のほうがみんな同じ方向を向いてやってるので、そちらが強くなるのは当然だと思ってしまいうんですが、そこで公平性とか、意見がどれだけ吸い上げられているのかっていうところは、あまり納得ができないと思ってしまいうのですが。

というところと、では逆に、私としては、白浜を残してほしいという考えのもと、逆に白浜が残る場合の想定されるパターンって何かあるんですか。僕はそこが全く見い出せない。こういう意見が出ました。こうなりました。逆にディベートとかで入れ替えて話をすると思うんですけど、そういうときの、逆にこうだったら残していいんじゃないかっていう話っていうのはあるんでしょうか。

教育長 最初の説明ではなかったんですけど、再編検討委員会の皆さんには説明してあるわけですけど、再編検討委員会の結論としますと、再編の方向でやっていこうという結論も当然あります。もう一方は、「いや、この少ない人数で白浜地区はいいんだ」っていう。「4人・5人の学年の子どもたちで、小学校生活を送らせてもいいんだ」っていう。

そういう結論に至った場合については、再編検討委員会の結論がですね、そういう結論が出た場合については、同じように、保護者への説明会と地区への説明会を開いて、再編検討委員会としては、統合しないで、4人・5人の学年の子どもたちでやっていく。それで白浜小学校を残していく。こういう結論になりましたという説明会を開いて、地区の方々からおおむね反対の意見がなければ、再編検討委員会の結論とすれば、少ない人数で白浜地区はやってくんだ。そういうような形になって、私どもとすると、白浜地区の小学校の再編はないという。そういうような結論をいただくことになると。そんなふうに、再編検討委員会の皆さんには説明はしております。

保護者 「おおむね」というところが気になるところですが、ありがとうございます。

委員長 よろしいですか。

他に御意見ある方いらっしゃれば。

保護者 よろしくお願ひします。

私は移住して6年になります。子どもが二人いて、上の子は今年長さんで、森のようちえんはっぴーという小規模の幼稚園に通っています。

はっぴーですと、はっぴーを目がけて移住する方とかも年に何組かいらっしたりして、はっぴーの教育とか理念をとて理解した方っていうのは、親子ではっぴー目がけて移住する方っていうのがいらっしやるんですよ。

教育っていうのはそれぐらい力があるのかなと思っいて、白浜ではとても子どもが少ないけれども教育がとていいっていうふうになれば、移住する方がいるんじゃないかなって、これから子どもが増えるような環境になる可能性もあるんじゃないかなと、白浜にはとてもそういう力があると私は思っっています。

私は今、海の仕事をしっいて、白浜の素晴らしい自然の中で仕事をしっいてると、とてもこういう環境の中で子どもを育てるっていうのはいいなって本当に思っんです。

でも、この3・4年の中で、二組ほど子どもを連れて白浜に移住したいっていう方がいました。でも、うまく家が見つけれなかったりとかして、その方たちは結局移住がでしなかつたっていうことがありました。

でも、やっぱり白浜はとていい場所だし、もつと可能性があるような町だなというふうに思っってます。なので、私は意見しか言えないんですけども、いろいろな人と白浜のことを話すと、「いや、もうちょっとなんか何もないし」みたいなふうに言われたりもするんですけど、本当にそうなのかなっていうふうに思っいて、うまく言えないんですけど、子どもがいないから学校をなくすっていうよりは、子どもがいい環境っていうのをどんどん増やしっければ、学校はもつと楽しくなると思っし、町もすごい素晴らしい町になっっていくんじゃないかなって、今でさえとても素晴らしい町だとは思ってるんですけど、もつと賑やかな町になるんじゃないかなって思っってます。

結局、人数が少ないっていうのは、とてもあれだとは思っんですけど、学校が町からなくなるってとてインパクトが大きいことだし、それによつて、どんどん「元気ないな、この町は」になっっていくのは、とてももつたいないなと思っくの

で、残す方向で私は考えたいなっていうふうに思ってます。

すいません、長く話してしまいました。よろしくお願いします。

委員長 はい、ありがとうございました。

教育長 学校再編して、学校統合しても、白浜小学校の今の学区がなくなるわけではないということですね。千倉小学校の学区と、白浜小学校の学区が一つの学区になるという。新たな大きな学区になるということで、例えば、嶺南小学校は旧丸山町と旧和田町が一緒になったわけですけど、子どもたちが学習したりする場所は、両方の旧丸山町・旧和田町の両方を使って学習活動しています。校外学習も、どちらか一方に偏ることではなくて、両方の学区のいいところを学習の場としてやっていますので、白浜の自然とか白浜の良さとか、そういうものについては、統合してもそこが学習の場になってくると思います。

ただ、人数ですね。人数が果たしてこの人数、さっき示したような学年の人数でいいかどうか。私どもが心配してるのは、極端に偏りが出てきますと、これまでの例で言いますと、女の子9人・男の子1人（※）という学年がありました。学校統合前だったんですけど、それは幼稚園に入った段階から、違う幼稚園に行って、男の子だけで5年生まで過ごしたとか。（※正しくは、女の子1人・男の子9人）

逆にですね、少ない人数だと偏りがあったりすると、この学区じゃなくて、白浜じゃなくて違う学校を選ぶ、そういう人も出てくるっていう。

ですから両面あるわけですし、これは皆さん方のいろんな意見をいただきながら、再編検討委員会で結論を出していただきたいと思っています。

委員長 よろしいでしょうか。

はい、どうぞ。

保護者 僕も今の話に賛成なんですけど、教育っていうところが、同じ学校に行って先生に教えられたことを学ぶのではなくて、生きる知恵を学ぶところだと思ってるんですよ。今の時代、いろんなことがいつ起こるかわからなくて、学校に行って学ぶこ

とだけが全てじゃないと思っているんですね。なので、クラスの人数が少ないからといって、学びの率が少ないわけではなくて、そこで多様性を生かして自分が学んでいるという力もどんどんついてくると思うんです。

一つ問題は、車に乗って学校に行けばいいだけじゃなくて、もう子どもたちが学校に歩かないんですよ。歩く機会が激減してるんですよ。歩かないってことは脳が発達しないんですよ。朝に車で学校へ行って、うちの子どももそうなんですけども、今年の冬からちょっと歩かせるようにはしていますが、もうほとんど歩かなくなってる。ようは学校の校庭で走るだけで、通学で10分とか20分とか普通に歩いている機会が、10分・20分だけですけどもあったのが、歩かなくなっちゃってる。歩くこともしないし、先生に言われたことに、切磋琢磨という言葉もあったんですけど、切磋琢磨が本当に必要なのか。これだけネット社会が進んでいて、自分の多様性や自分の自己肯定感を上げなきゃいけない時代に、切磋琢磨して人と競争することがどれだけ大事なのか。大変なのか。それともそれが本当に必要なのか。

それが将来的に、日本っていったら話が変わるんですけども、ここの白浜地区で、それがどういうふうな形で子どもたちに残っていったら、この10年後・20年後・30年後にどこまでこの地区を活性化させていけるかというビジョンをちゃんと見た上で、教育っていうのを考えていかないと、本当にもうイタチごっこ。さっきも話したんですけども、学校がなくなります。子どもが少なくなりました。はい、統合しましょう。じゃあ今度、千倉と白浜がなくなったら、子どもが集まらなくなったら、じゃあ次どこどこを統合しましょうって、どんどんそれが広がっていくだけだと思うんです。

でも今は逆にチャンスだと思っていて、この状況をどういうふうに変えるかっていうのを意見交換して、例えば教育長が言っている複式学級のこのデメリットをメリットにすることなんて、たぶんいくらでもできると思うんですね。

ただ、これを「じゃあ6年後に閉校します」とかってなったときには、もう取り返しがつかないというか。逆に言ったら、今はチャンスだと僕は思うので、もう少し歩み寄った、多数決ではないだとか、住民投票しないだとか、こういう形で意見を話し合った上で決めますとかっていうところではないところで、長いスパンで

教育っていうのを地域に落として見直すスペックが白浜にあると僕は思っているんです。なので、その辺を少し御検討いただけるといいなと思いました。

委員長 ありがとうございます。

はい、どうぞ。

保護者 今日は、ありがとうございます。

私は、どっちがいいのかわからない。こういうお話を聞いてても、統合したほうがいいのか、そのまま残ったほうがいいのか、両方ともいいことだよなと思いつながら、皆さんの意見を聞いてて、いくつか意見と聞きたいことがあって、聞かせていただくんですけど、今私の子どもが小学校2年生なんですけれど、白浜小学校に通っていて、毎日楽しく行ってくれてるし、嫌な顔せずにとというか、学校行くのが楽しいなっていうところで行ってくれてて、確かにこの人数見ると16人で、今一番人数が多いところだと思うんですけど、少ないからこそ、担任の先生とかすごく見てもらってるなって思うし、先生との距離の近さなのか、距離感がいいのかわからないですけど、とても感謝してます。

それと、全体的な人数は少ないんですけど、はっきり言うといけないかもしれないですけど、まず先生方は全学年の子どもの名前を覚えていると思うんです。これって子どもにとっては、みんなが大人に頼れる。そういう環境ができてるのはすごくいいなと思っているので、とても感謝してます。少人数はいいなって思うところもあります。これは一つ意見ですね。

もう一つ、先ほどのお話の中で、距離の話。やっぱりここって大きいかなって思うんですけど、順番としては、子どもたちの教育環境、大人数・少人数、さっきのメリットの部分ですよね。メリットの部分を進めてもらって、その後に距離の話っていうところなんですけど、小学生でやっぱり長い距離をバスに乗って、1年生とかだとしたら睡眠時間も減るでしょうし、その辺のところの難しさというか、どっちが先かっていうのは御意見としてわかるんですけど、どっちが先なのかなっていうのはちょっと思うところがあったので、意見として言わせていただきます。

最後なんですけど、これは質問ですね。資料2の表の2なんですけど、令和7年

度以降、複式学級が令和9年度に初めてできます。今のままでは、ということで。となったときに、先ほどの御説明の中で、白浜小を残すのであれば、どこまで耐えられるのか。というのは、変な話、10年度まで耐えられるのか。11年度に、さすがに複式が二つできちゃうと、先生が1人つけないよってことだと思うので、10年度までは何とか耐えるっていう考え方もあるのかなというところで、実際に再編検討委員会の意見なんでしょうけど、再編をしたらいつぐらいなのか。その辺はイメージが全くできなくて、どんな感じなんですかね。

まず、これは質問です。

委員長 お願いします。

教育長 最初の質問ではなかったんですけど、16人ということで、私どももこの16人、10人以上の人数で推移していたときには、白浜小学校の再編は想定してませんでした。

ですから、中学校の再編をしていたときに、保護者の皆さん等から、小学校はどうするんだっていう声もあったんですけど、その時点は、今一桁の数が見えていない状況でしたんで、小学校はまだ考えていませんってお話したんですけど、その後一桁の人数が出てきたんで、今こういうような状況になっています。

ですから、この16人でしたら、今お話があったような子どもたち同士のぶつかり合いっていうんですかね、泣いたり笑ったりとか、そういう中で自分の理解とか相手の理解とかそういうものを積んでいくと思いますけど、これが2人・3人とか、そうなってくると、その点は非常に危惧される場所だってことで、今提案しているところでもあります。

あとですね、もし統合するしたらいつなんだってことなんですけど、今おっしゃったように、このまま会議を進めても、今7年度が終わるところですので、8年度・9年度、協議をしていって、いろんなスクールバスの準備だとか、そういうものがあっても3年はかかるのかなと。

そうすると、したがいまして、10年度の複式が複式のまま白浜小学校が残って、11年度に再編というようなことも想定されますし、私のあれですけど、8年度・

9年度でいろんなものを詰めていって、早くても10年度なのかなっていう、そんなような見通しは持っています。

保護者 ありがとうございます。

本当に今どっちがいいのか迷ってるところなので。

はい、ありがとうございます。

委員長 よろしいでしょうか。はい。

他に御意見等ございますか。

どんなことでも結構ですよ、どうぞ。

事務局 すみません。

先ほど御質問の中で、千倉小学校でスクールバスを使っている児童がどのくらいいるかという御質問があったんですけれども、166人の児童が、今スクールバスで千倉小学校まで通っております。

児童が274人いるうちの166人ですね。

教育長 学校統合しますと、通学支援ということで、スクールバスを走らせるようにします。このスクールバスに乗れるのは2キロ以上の子どもになります。したがって、今まで徒歩で通っていた子も、2キロちょっとあったのに徒歩で通っていた、その子たちもスクールバスに乗るようになります。

これはですね、先ほど歩くことがなくなっていくとか、そういう話があったんですけど、私どものもう一つの課題はですね、登下校のときの安全確保ですね。

いろんな状況が出てきます。徒歩で行ったときに、やはり人通りの多いところだけではないので、そういうようなところで、要望とすると、スクールバスを出して欲しいっていう、2キロ以内でもそういう要望はあるのが正直なところなんです。それでも、今2キロという線で切ってるわけですけど、もう一つは、安全面ですよ。親御さんが心配してるのは。要するに、運動不足とかそういうことより、別の観点でスクールバスで通ったほうが安全に登下校できるんだらうっていう、そういう要

望もあります。

委員長 他に御意見ございますか。

はい、どうぞ。

保護者 度々すいません。

教員不足というところなんですけれども、現実的に複式学級になったりとかしたときに、教員が足りなくなる、負担が大きくなるというのは、例えば予算的な問題なのか、それとも現実的に教員が足りてなくて、全国から募集かけてもここに来ることがないだとか、ある程度の人数がない限り教員を増員することができないだとか、そういった決まりごととか、そういうものっていうのはあるんですか。

もしくは、例えば、もう全国での教員不足ってのはあるのかもしれないんですけども、その辺をデジタル化して、例えば小学校もタブレットを使って、そういうのを使ったり、いろいろされていると思うんですけども、そういった方針で穴埋めするとかっていうことで、検討してる例とかっていうのはありますか。

委員長 お願いします。

教育長 教員不足っていうのは、全国的に言われてますね。教員のなり手がいないとか、そういう理由での教員不足とは、複式学級は本質的に違いますので、元々さっき説明がありましたように、複式学級が11年度に二つできます。そうなりますと、4学級ですね。4学級は、法律で決まってるので、学級数プラス一人の教員が配置されます。ですから、5人の教員が配置されます。校長・教頭・養護教諭を別として、担任ができる教員が学級数プラス1で5人配置されます。そうしますと、5人しかいないんで、どんなに頑張っても、それぞれ学年1学級にはできないわけですね。これが、足りないとかそういう問題じゃなくて、それが複式学級に配置される教員の数でして、ですから館山では複式学級で4学級のところがいくつかあるようなんですけど、今度の再編で全部解消する方向になってますけど、例えばですね、5学級の場合については、5学級プラス1ということで、6人の教員が配置されます。

余計に配置された教員も使って、担任全て1年から6年までつけます。そうすると、残っているのは校長・教頭しかいないわけですね。例えば、プラス一人がいて、いわゆる教務主任とかそういう立場の人間がいて、例えば2年生の先生が体調不良とか、あるいは年休とか、そういった形で休んだときには、プラス一人の人が代わりに行けるわけです。

ですけど、5プラス1で6人を最初から全部使ってしまいますと、もう校長・教頭が行くしかないわけですね。それは、学校経営にとってかなり負担が重くなってくるっていうのが現実だと思います。

これは全国的に教員が足りないじゃなくて、制度として、そういう教員の配置しかできない。そういう現実があります。

委員長 よろしいでしょうか。

保護者 先生が休んだら自習にすればいいんじゃないかなとか、いろいろ思っちゃうことがたくさんあるんですけど、校長先生が授業に出てくれることっていうのは、逆に僕が子どもの気持ちになったとしたら、すごく嬉しいことであって、うちの子どもなんかは、ちょっと余談ですけど、校長先生に年賀状を出したり、お返事が来たらものすごく嬉しいっていう、ものすごく近い距離で、これが大きな学校だったらそれができないだろうし、でもその学校の先生とすごい近いことである意味デメリットが解消できるんじゃないのかなと思ったりもしましたが、いろいろと御都合があるでしょうから、はい、すいません。

委員長 他にございますでしょうか。

《しばらくの間》

委員長 よろしいですか。

《しばらくの間》

委員長 それでは、御意見・御質問等はないようですので、終えたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

それではこの後、後日ですね、何かお気づきになった点、もっと知りたい点があれば、今週の16日の金曜日にですね、ここで地域住民を対象にした説明会がありますので、そちらのほうに御出席いただきたいと思います。

また、あるいは、直接ですね、事務局ほうにお問い合わせいただいても結構です。本日、皆様から頂戴した御意見等は、今後の白浜地区学校再編検討委員会の協議・検討の際に参考にさせていただきたいと思えます。

それでは、次第の6、質疑・意見交換を終わります。進行のほうを事務局のほうにお返しいたします。

ありがとうございました。

7 閉会

進行 山崎委員長、ありがとうございました。

今後の白浜地区学校再編検討委員会の協議・検討内容につきましても、市ホームページで逐次公開いたしますので、御確認ください。

それでは、以上をもちまして、白浜地区学校再編に関わる地区説明会を閉会いたします。

御協力ありがとうございました。